

法学部 2年

楠 圭介

英国

2019年9月2日-

2019年9月24日



### 渡航概要と内容

2012年にロンドンオリンピック・パラリンピックが開催された東ロンドンにおいて、オリンピックレガシーについて調査を行った。ロンドンを渡航地に選んだ理由としては、ロンドン大会は初めて大会開催前からレガシーについての計画を立てて、その計画が成功しているとの評価を受けていたからである。具体的な調査内容としてはイギリスの文化・メディア・スポーツ庁がロンドン大会の開催にあたって約束した5つのレガシープランのうち、東ロンドンの再生とスポーツ・ボランティアの推進についてどのように計画が実行されているかを調査した。東ロンドンの中でも、現在オリンピックパークがある場所は19~20世紀の間、東ロンドンの産業の中心であり工業地帯として使われていたため、土壌汚染や河川汚染が深刻で開発が進まず、ロンドンの中で最も貧困な地域とされていた。そのため、その地域にメインスタジアムを含むオリンピックパークを建設し、東ロンドンを生まれ変わらせることは、レガシープランの大きな目的の1つだった。また、オリンピック・パラリンピック開催を契機に、スポーツを推進しイギリスをスポーツ大国にすることや、ボランティアを推進しコミュニティレベルでの人々の結びつきを強化することも、レガシープランの大きな目的の1つだった。現地では以下の活動を行った。

#### 1. オリンピックパークを中心に大会前後の変化を調査

まず、ロンドン大会で用いられたスポーツ施設が現在どのように使われているのかを調査した。メインスタジアムとして使われたロンドンスタジアムは、座席数を80,000から66,000に減らし、様々なスポーツに対応できるスポーツ施設へと変化した。現在はプレミアリーグのウェストハム

ユナイテッドのホームグラウンドとして使われる他、ラグビーや野球など様々なスポーツイベントの会場として使われている。ロンドン大会で競泳の競技会場として使われた London Aquatics Centre や室内競技の会場として使われた Copper Box Arena や自転車競技の会場として使われた Lee Valley Velodrome などは国際大会などが開催される一方、普段は一般開放されていたり、地域のクラブのために使われたりしていた。これらの施設の調査を通して驚いたことは、様々な人がこれら高水準の施設を用いることができるということである。例えば、London Aquatics Centre では、滞在期間中世界パラ水泳選手権が開催されていたが、この大会で使われたプールには普段浮き具が浮かべられ、子供たちが安全に遊べるようになっている。他にも Lee Valley Hockey and Tennis Centre では、テニス場 6 面、ホッケー場 2 面がロンドン大会開催後に新設され、地域住民がこれらの施設を活用している。このように高水準の施設を一般開放することは、スポーツ推進にも重要な影響を与えていると考えられる。



London Stadium



Copper Box Arena



Verodrome



Tennis Centre

次に、大会後に作られた住居や様々な施設について調査した。パークには現在選手村跡地を中心に 2,800 戸を超える住居が既に建てられていて、2020 年までに 10,000 戸の住居が完成されるように現在も工事が行われていた。また、大会中放送の拠点があった場所には、現在 2 つの大学の施設が含まれた文化施設である Here East があり、さらに East Bank という複合文化施設も建設中であった。パークと Stratford 駅を結ぶエリアには高層ビルが建ち並ぶ International Quarter

London というビジネス街が築かれていて、2025 年までにパーク内で 40,000 の仕事を創出することが目指されている。これら施設を見学して驚いたことは、レガシー計画の規模の大きさである。事前にどれくらいの数字を目標に計画が行われているか調べてはいたが、実際にその様子を見てその規模に驚いた。これらの施設や住居の他にパーク付近には小学校などもいくつか作られていて、パークを中心に1つの町を作り上げているような感じだった。



オフィス街と建設中の East Bank



パーク内の住居

## 2. パーク内でのイベントの見学

私が滞在していた9月にはパーク内の施設でのプロチームの試合なども含めると、20日間ほどイベントが開催されていて、イベントがない日はパーク内に人はまばらにしかいないが、イベントがある日は多くの人が集まり、賑わっていた。これらのイベントの内、スポーツ推進を目的としたものとしては、マラソン大会が月に3回ほど開催されていた。パークのボランティアによると、スポーツ推進イベントは最初の1,2年以降は下火になっているそうだが、私が見学したマラソン大会には、600人超が参加していて盛り上がっているように見えた。このようなイベントがない日もパーク内では多くの人がランニングなどを楽しんでいた。



マラソン大会の様子



世界パラ水泳選手権の様子

### 3. インタビュー調査

東ロンドンに住む人がレガシーについてどのように考えているかを知るためにインタビューを行った。インタビューに協力してくれた男性によると、最も重要なレガシーは大会を契機に作られた住居や商業施設だという。実際、パークの最寄り駅の Stratford 駅には Westfield という巨大な商業施設が大会前に作られ、現在もとても多くの人々がショッピングや食事を楽しんでいた。オリンピックが招致される前は、ただ工場があるだけで人が住むような場所ではなかったという話も聞いたが、そんな話が信じられないほど、現在のパーク周辺には人があふれていた。東ロンドンに住む人としてはこのような変化を最も重要なレガシーとして評価したのだと考えられる。

また、パーク内でボランティアとして活動している人にどのような活動をしているか話を聞いた。そのボランティアの方によると、パークの案内や障がいを持っている人への補助などパークの運営のほぼ全てはボランティアによって担われていて、パークで活動しているボランティアの数は500人にも及ぶいい、パーク周辺だけでなく遠くからもボランティアに参加しに来ている人がいるとのことだった。それらの人は、人々の憩いの場所になっているパークを誇りに思っていて、その気持ちがボランティアへ参加させているという。インタビューに協力してくれたボランティアの方は、パーク自体を最も重要なレガシーとして評価していた。



Westfieldの様子



Stratford 駅

## 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航では、東ロンドンがパークを中心に、まさに変革している様子を見ることができた。東ロンドンのレガシー計画については、インターネットなどを通じて事前に多くの情報を得ていたが、実際に東ロンドンを訪れて計画の規模を感じ取ることができた。また、これらの計画に関わる様々な立場の人の話を直接聞くことで、計画への理解が深まった。ロンドン市の博物館にはオリンピックレガシーに関する展示があったり、世界パラ水泳選手権の開会式でもレガシーについて触れられていたり、現在もロンドンの人々にはオリンピック・パラリンピックの開催の影

響が残っているように感じられた。また、レガシープランの大部分を担う、ロンドンレガシー開発公社は、パーク内の工事現場にレガシー計画などについて説明した看板を設置したり、neighborhood talk と称して、パーク周辺に住む人やパーク周辺で働く人を対象に、レガシー計画に関する質疑応答の場を設けたりして、このような周知活動も計画実行に必要なのだと感じた。

現在のパーク周辺の様子を見て、この場所に以前は誰も住んでいなかったという話を信じる人はいないだろうと確信が持てるほど、現在のパーク周辺にはたくさんの方がいた。当初、オリンピックレガシーとはオリンピックで使われたものをどのように活かすかに焦点が当てられていると思っていたが、実際に現場を見て、ロンドンのレガシー計画とは単に施設の利用方法を考えるだけではなく、オリンピック開催を契機に東ロンドンを人々が住みやすい場所に変えるべく、新たな施設や設備を整える計画だと分かった。

現地の生活では、初めは日本との違いに戸惑う部分もあったが、日が経つにつれ日本との共通点などを探す余裕も出てきて、文化面でも様々な発見があった。

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

知り合いが全くいない外国の地で、3週間もの間調査や生活についての計画を立て実行した経験は、上手くいった部分や失敗した部分を含めて、将来的に役に立つと思う。

また、レガシー計画について、様々な関わり方をする人の話を聞いたこと、実際に計画がどのように実行されているかを見ることができたことは、今後東京オリンピック開催に伴い実行される計画について観察する際に活かすことができると思う。

## 本プログラムでの渡航を考えている学生へのアドバイス

自分の興味・関心を出発点に、様々な計画を立て実行していくのは勉強になることがとても多く、何より楽しいと思うので、おもしろチャレンジに少しでも興味がある人は応募してみるとよいと思います。

渡航するまでの準備としては、下調べをたくさんした方がよいと思います。3週間の渡航期間の詳細な計画を立てるのは難しいと思うし、行ってみなければどうなるか分からない部分も多いと思うので、計画を綿密に立てるというよりは、下調べをして十分な知識を持った状態で渡航し、人との出会いなどの中で、話や調査を助けられるチャンスを逃さないようにするのがよいと思います。

## 主な奨学金の使途

\*宿泊費

\*渡航費、現地交通費

\*調査費、海外旅行保険料 など